

2018 年 5 月 18 日

企画委員長

2017 年度活動概要報告

1. 活動概要

運営委員会の下，企画委員会が政策提言を中心とする戦略的活動とシンポジウム，実行委員会がセミナー・スクール等のコミュニティ活動を担当した。

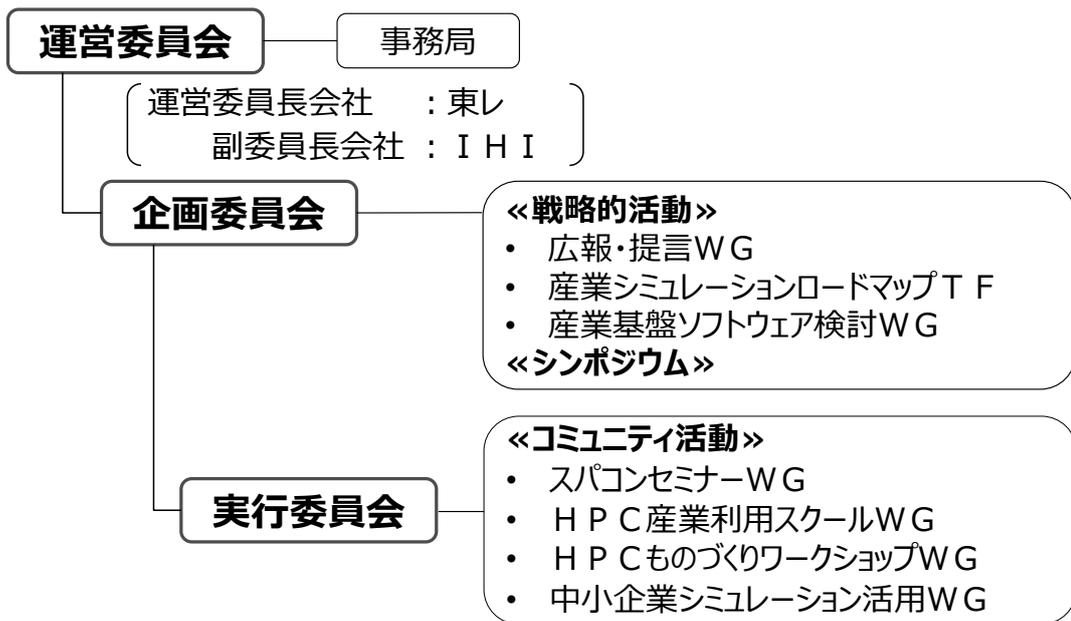


図 1 : 2017 年度活動体制

2. 実施内容および主な成果

2.1. 戦略的活動

2.1.1. 広報・提言

- ・ 昨年度に引き続き，会員企業から HPC 産業利用について意見集約，提言として文科省および関係機関に発信した。文科省研究振興局長と運営委員長との面談を実施し，担当者レベルで率直な意見交換を進めるよう合意した。
- ・ 文科省 HPCI 計画推進委員会が H29/8/7 付で公開した提言に，産応協が発信した「セキュリティ」「大規模データの取り扱い」が検討課題として明記された。
- ・ セキュリティや大規模データについては，会員アンケートや外部有識者を招いた勉強会を実施して課題を深掘りし，HPCI 関係機関（RIST，理研 R-CCS，9 大学情報基盤センター）との第 1 回意見交換会を実施した。産業界の呼びかけによる意見交換会は今回が初めてであり，要望をさらに具体化した上で今後も定期的に実施する予定。

2.1.2.産業シミュレーションロードマップ

- ・ 産業界におけるシミュレーションへのニーズを「機械・建設」「化学・材料」の2分野について明確化し、中長期的に実現していくための技術的課題をまとめた。
- ・ 今年度前半までは分野別に執筆を進めてきたが、後半から全体打合せを9回開催して議論を深め、ドラフト版を完成した。
- ・ 産業界のニーズとして、重点課題公開シンポジウム等の機会に社会に発信するとともに、その実現に向けて、アカデミアや国、関係機関に働きかけていく。

2.1.3.産業基盤ソフトウェア

- ・ 「化学・材料」「機械・建設」の各分野において、会員有志を募ってプロジェクト案を企画し、有識者・関係機関への働きかけを行った。
- ・ 国の施策とのタイミングが合わずプロジェクト化は果たせなかったが、基礎研究から開発・維持・発展まで視野に入れた枠組みを産業界の視点で取りまとめることができた。企画案は広報・提言WGに引き継ぎ、時宜を見て再提案を検討する。

以上の戦略的活動と文部科学省および HPCI 関係機関との連携状況について、図 2 に整理した。

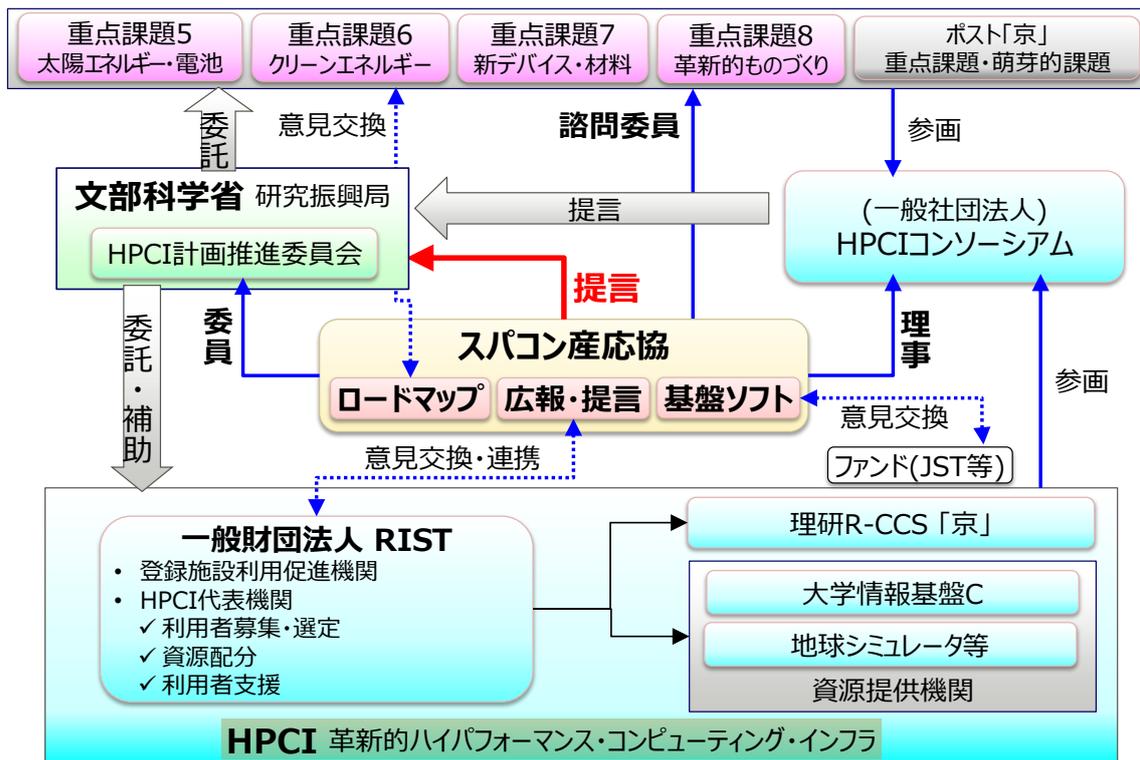


図 2：産応協の戦略的活動と HPCI 関係機関との連携

2.2. シンポジウム

- ・ 2017/12/13(水)／トラストシティ カンファレンス・丸の内／147 名参加

- ・ データ科学や AI に対する産業界の関心の高まりを受け、2017 年度は「データが変革するものづくり～データサイエンスの最前線～」とのテーマで開催した。ゲスト講師からは、分子設計から製造現場向けデータ解析ソリューションまで幅広い話題で講演いただき、参加者から好評を得た。

2.3. コミュニティ活動

産応協が主催するセミナーやスクール等のコミュニティ活動は、産業界の HPC 人材育成や交流の場として多くの参加者を集めている。

表：シンポジウム、コミュニティ活動への参加者数実績

	第 1 回	開催回数	延べ参加者数
シンポジウム	2005	11 (発足記念の 1回を含む)	1838 (第10回まで)
スパコンセミナー	2006	40	2023 (第40回まで)
産業利用スクール	2009	23	371
ものづくりワークショップ	2013	9	189
中小企業技術交流会	2014	4	198

2.3.1. スパコンセミナー

- ・ 「HPC におけるセキュリティ」「防災・減災，社会(都市)インフラ」「AI のビジネス活用」をテーマに 3 回開催した。
- ・ セキュリティの回は広報・提言活動との連携によるテーマ設定で実施し、熱心な討議が行われた。今後も、他 WG との連携によるテーマ設定を検討したい。

2.3.2. HPC 産業利用スクール

- ・ 「最適化・設計探査」(7 月)「統計的データ分析」(10 月)「OpenFOAM」(2 月)の 3 回実施した。
- ・ 少人数(20 名程度)で講師と参加者、参加者どうしが密に交流できる企画として好評を得ており、リピーターも多い。新規参加者の発掘が今後の課題。

2.3.3. HPC ものづくりワークショップ

- ・ 昨年度に引き続きボックスファンのベンチマークを共通課題とし、8 月の会合でベンチマーク結果を共有できた。
- ・ 東大生産技術研究所の後援の下、アカデミアとの密接かつ継続的な人的交流の場として、他の技術分野にも活動の幅を広げていく方針。

2.3.4. 中小企業シミュレーション活動

- ・ ひろしまデジタルイノベーションセンターの協力を得て、2 月に開催。広島県内の製造業・エンジニアリング会社との意見交換、人的交流を図った。

- ・ スパコンへの関心はあるものの、強い必要性を感じている企業は多くないという課題が浮き彫りになった。導入コストや実行環境など、普及促進には新たな工夫が必要。

3. 総括

- ・ 各活動の主査を中心とする産応協委員の尽力と関係機関の協力により、2017年度も活発な活動を展開した。
- ・ 戦略的活動では、意見を取りまとめて発信し、関係機関と協議するという一連の流れを形成できた。ニーズの具体化と、実現に向けた働きかけのあり方は、今後さらに検討したい。
- ・ コミュニティ活動については、現場のニーズを反映した企画により、多くの参加者を集めた。タイムリーな企画と積極的な広報活動により、さらに多くの新たな参加者を誘い込んでいきたい。

－以上－